

特許流通 ニュースレター

特許流通
ニュースレター

No. 4

2004.8.15
発行

特許流通成功事例 (P2-5)

成約事例レポート 2-3

鈴木 泰 特許流通アドバイザーに聞く
「陰イオン性化合物の分離分析方法及び装置」
装置メーカーと慶大発ベンチャー企業へ実施権のライセンス

野口 満 特許流通アドバイザーに聞く
「サンドブラストによる
アスファルト表層の模様化方法」
ライセンサーからのダイレクトメールに触発されコンタクト



主な特許流通事例 4-5

2004年6月30日までの報道記事より

1. 黄金色ザリガニ
2. 小型高圧用加圧遠心ポンプ
3. 窒化アルミニウム表面改質方法 ほか
4. 環境に優しい黒板
5. 省エネシステム「受電設備の力率調整システム」
6. 植物保水用担体
7. 補助人工心臓用の簡易駆動装置技術

ほか合計10件

企業インタビュー 6-7



和光コンクリート工業 金丸 和光会長に聞く
ライセンスの全国展開と品質維持のため
協会も設立し研修会を実施



インフォメーション 8

工業所有権総合情報館、名称を「工業所有権情報・研修館」へと改称へ
「特許流通フェア」を各地で開催
「特許ビジネス市」、2004年9月(東京)、11月(大阪)で開催



鈴木 泰 特許流通アドバイザーに聞く 成約事例レポート

技術シーズ名 「陰イオン性化合物の分離分析方法及び装置」(特許第3341765号)

装置メーカーと慶大発ベンチャー企業へ実施権のライセンス

慶応義塾大学先端生命科学研究所の曾我朋義助教授が開発したバイオテクノロジー用の分析技術の特許を装置として実用化するために、慶大知的資産センターから横河アナリティカルシステムズ(東京都八王子市)に同特許について通常実施権のライセンスが行われた。また、曾我助教授はこの特許などを使った化学解析をビジネスとする大学発ベンチャー企業のヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(HMT、山形県鶴岡市)を2003年7月7日に設立し、取締役役に就任した。同社に対しても通常実施権のライセンスが行われている。化学分析のほか創薬支援、診断やオーダーメイド医療への応用を目指す。



図1 装置と曾我朋義助教授

マイナスをプラスに代える逆転の発想で実現

開発した分析技術は、人間などの生体の細胞の中で起きている様々な化学反応によって生じる1000種類以上のアミノ酸や糖などの代謝物質(メタボローム、metabolome)を30分程度の時間で一度に数百種類を分析できる。従来方法では一度に数十種類程度しか測定できなかった。代謝物質を含む溶液を細い毛細管(キャピラリー、capillary)に導入後、キャピラリーの両端に高電圧を印加するとプラスに帯電した物質はマイナスの電極に、マイナスに帯電した代謝物質はプラスの電極に引き寄せられる。このキャピラリー電気泳動(Capillary Electrophoresis、CE)の原理を使って、代謝物質を分離後、質量分析(Mass Spectrometry、MS)装置で検出する方法を開発した。

しかし従来のキャピラリーではマイナスに帯電した物質を測定する際に、電気浸透流という液流が陽極から陰極方向に発生するためキャピラリーの出口に空気が入り、電流が途中で流れなくなるといった問題点があった。曾我助教授は、内部をプラスに帯電するようにコーティングした「SMILE(+)」キャピラリーを使用し、電気浸透流を反転することで、マイナスに帯電した物質を測定することに成功した。この陽イオン性に帯電したキャピラリーを用いたCE装置とMS装置の組み合わせで陰イオン性化合物を分離分析する方法と装置が特許の対象になっている。

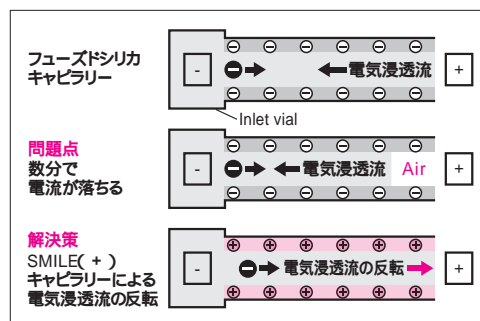


図2 特許となったCE-MS装置による陰イオン測定法

事業化への熱意で特許登録もライセンスもスムーズに

曾我助教授はもともと横河アナリティカルシステムズの研究者で、2001年4月1日に出身母校でもある慶大の鶴岡キャンパス開設時の公募で助教授として就任した。慶大で同技術を開発し、特許を出願した。事業化への意欲が高かったため、慶大知的資産センターは早期審査請求を行い、特許出願から13カ月後の2002年8月23日に特許登録された。製品化に当たっての特許実施権のライセンス先として慶大知的資産センターに同社が紹介された。鈴木泰特許流通アドバイザーが、両者の間に立って交渉を進め、2003年1月に契約している。さらに分析事業を行うHMT社では完成した装置を使って事業を行うことから、同社へ実施権のライセンス交渉も行った。ライセンス契約は2003年10月。将来、同特許を使った新たな技術や装置の開発が行われた時には慶大にライセンス料が支払われるという。

(インタビュー:日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

〔 特許の所有者 〕

学校法人 慶応義塾
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45



〔 実施権のライセンス先 〕

横河アナリティカルシステムズ 株式会社
〒192-0033 東京都八王子市高倉町9-1

鈴木 泰 特許流通アドバイザーの連絡先

TEL = 03-5427-1678 FAX = 03-5440-0558 電子メール = suzuki-ad@adp.jiii.or.jp



野口 満 特許流通アドバイザーに聞く 成約事例レポート

技術シーズ名 「サンドブラストによるアスファルト表層の模様化方法」(特許第2873440号)

ライセンサーからのダイレクトメールに触発されコンタクト

公共事業の道路舗装や区画線、標識などの工事を行っている工建は、現在の久保塚康社長が30歳だった2002年に創業者である父親から社長職を引き継いだ。新社長として、昨今の公共投資の予算削減などに対応するため、付加価値のある事業を模索してきた。たまたま届いたダイレクトメールが、今回の特許のライセンサーであるアステスの「自然石アート舗装」。その技術にユニークさを感じた久保塚社長は、すぐにインターネットで同社のWebページにアクセスし、同社にコンタクトした。早速、ビジネスパートナーとして仕事をしないかという趣旨の資料が届いた。とにかく会ってみようと、直ちに岐阜の同社に飛んで行った。

公園整備事業でブロック舗装のリフレッシュに挑戦

同特許はもともと、サンドブラストを使ってアスファルト舗装の表面の黒いタールの油脂分を除去し、骨材の自然石を露出させることで様々な模様を実現する技術。骨材に白っぽい石や様々な色の石を用いることで、パンダの絵や桜の花びらなどの模様を浮かせられる。また同じ技術を用いて、汚れたコンクリートブロックの表面を清浄にすることができる。たまたま工建は国営武蔵丘陵森林公園(埼玉県滑川町)の整備事業の試験施行を行った時期だった。久保塚社長は、公園内のブロック舗装(インターロッキング)のリフレッシュに同技術を使おうと考えた。これまでのリフレッシュの方法としては、回転するワイヤーブラシで削るか、高圧のウォータージェットを吹き付ける方法があるが、粉塵や水が飛び散るほか、仕上がりにムラができたり凹凸の角が欠けたりするといった欠点があるからだ。



図1 工建の久保塚康社長

公共事業の特殊性に配慮して特許流通アドバイザーが特許技術の移転を支援

アステスを担当している岐阜県知的所有権センターの木下裕雄特許流通アドバイザーから埼玉県知的所有権センターの野口満特許流通アドバイザーに電話が入ったのが2003年8月下旬。野口氏は、工建から公共事業の特殊性などについて話を聞いた上で、バランスよく業務展開を進めることができるように、実施許諾契約の締結を勧めた。その後、秘密保持契約を締結した上で同技術を評価し、2004年1月にノウハウの提供を含む特許実施契約を締結した。実施契約には、公共事業の特殊性や同業者との連携が可能な内容が反映された。2003年の秋に森林公園のインターロッキングのリフレッシュ作業が行われた。広さは約200㎡。実質2日の作業で、くすんで黒くなっていたインターロッキングが元のピンク色に戻った。またコケの生えていたレンガもリフレッシュされ、滑りにくくなったと、一般の公園利用者から、お褒めの投書があった。「埼玉県はアスファルトの骨材が黒っぽいのでアート舗装は難しいかもしれないが、将来への投資でもある」と久保塚社長は語った。工建はほかにも、シックハウス症候群を防止できる空気触媒技術の導入など、環境を意識した新規事業への投資を積極的に行っている。

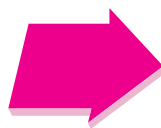


図2 武蔵丘陵森林公園でのリフレッシュ作業。左が処理前の汚れたブロック舗装

(インタビュー：日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

【 特許の所有者 】

有限会社 アステス
〒501-0471 岐阜県・真正町政田492-2



【 実施権のライセンス先 】

株式会社 工建
〒360-0843 埼玉県熊谷市三ヶ尻3507

野口 満 特許流通アドバイザーの連絡先

TEL = 048-265-1346 FAX = 048-265-1358 電子メール = noguchi-ad@adp.jiii.or.jp

2004年6月30日までの報道記事より

主な特許流通事例

ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
1 黄金色ザリガニ 	(株)新潟ティールオー(新潟市) (有)アクアシティ(福岡県・水巻町)	熱帯魚卸会社 (川崎市)	新潟日報 2004年4月3日
担当した 梁取 美智雄 特許流通アドバイザーのコメント  新潟大学理学部の山平寿智助教授と熱帯魚販売業のアクアシティ(福岡県・水巻町)が、遺伝子操作を使わず、幼体期に特殊な環境で育成することで黄金色のザリガニを作る技術を共同で開発した。この黄金色ザリガニは、鮮やかな色をしているので、観賞用として好まれ、また小学生の理科の教育用としても役立つ。TLO(技術移転機関)の新潟ティールオー(新潟市)を通じて、全国へ特許実施権のライセンスを進めており、熱帯魚や水草などの輸入卸をしている川崎市の企業へのライセンスが同TLOからの最初の成功事例。このほか2件のライセンスが既に行われているが、梁取美智雄特許流通アドバイザーは「さらに他県への普及を図りたい」という。			
アドバイザー連絡先		電話: 025-211-5140 電子メール: yanadori-ad@adp.jiii.or.jp	
2 小型高圧用加圧遠心ポンプ 	米原技研(有) (島根県・大社町)	(株)ベック (松江市)	日経産業新聞2003年8月28日 山陰経済ウイークリー2004年4月6日
担当した 佐野 馨 特許流通アドバイザーのコメント  米原技研(島根県・大社町)が開発したポンプの特許。小型ながら高圧、高揚程が期待でき、また水に気体を高濃度で混合してもキャビテーション(インペラー付近で生じる多数の気泡)の発生がなく、連続運転できるのが特徴。水に約30体積%以上の気体を微細な気泡で混入することも可能。洗浄用の高圧ポンプや機動性を要求される小型の消防ポンプに適し、また気泡混入でパリングが可能となり、海、湖沼の酸素供給に適する。島根県知的所有権センターの佐野馨特許流通アドバイザーがベック(松江市)に2003年11月に仲介し、約3カ月で専用実施権がライセンスされた。こまめに相談に乗ることで、成約に結びついたという。			
アドバイザー連絡先		電話: 0852-60-5145 電子メール: sano-ad@adp.jiii.or.jp	
3 窒化アルミニウム表面改質方法 ほか 	(財)理工学振興会 (東京都目黒区)	(株)トクヤマ (東京都渋谷区)	日経産業新聞 2004年4月6日
担当した 鷹巣 征行 特許流通アドバイザーのコメント  東北大学の福山博之助教授が東京工業大学に助教として在職していた当時、窒化アルミニウムの表面に緻密で強固な酸化膜を形成する技術をトクヤマと共同開発した。耐水性や耐薬品性が付加され、ハイブリッド自動車の電力制御用放熱基板、半導体製造装置用ウエハ固定治具、熱電冷却素子基板、発光ダイオード用パッケージなどに用途が拡大するという。同社は東工大TLO(技術移転機関)である財団法人理工学振興会の会員企業で、会員への特許の早期開示制度により、話が進んだ。同社は本件を契機に周辺特許の導入も積極的に始めた。鷹巣征行特許流通アドバイザーは「契約に至るまでの段階を確実に処理することが重要だ」という。			
アドバイザー連絡先		電話: 045-921-4391 電子メール: takasu-ad@adp.jiii.or.jp	
4 環境に優しい黒板 	黒田黒板(株) (宮崎市)	黒板製作会社 4社	宮崎日日新聞 2004年4月13日
担当した 久保田 英世 特許流通アドバイザーのコメント  黒田黒板(宮崎市)は、水溶性接着剤を使用することで、使用後に加熱して鋼板とベニヤ板を簡単に分離できるリサイクル黒板を開発した。従来の黒板は、油性接着剤で強固に貼り付けたため分離できず、廃棄処分が難しかった。同社が抱えていた問題に対して、宮崎県の久保田英世特許流通アドバイザーが、熱を加えると剥離(はくり)できる接着剤を紹介、実用化の感触がつかめたので特許出願を指導した。その後、黒板企業の集まる研修会で技術紹介を行い、その場で秘密保持契約を結び、開発促進を要望された。宮崎県の補助金を得て、大型黒板製造装置の開発完了を機会に、秘密保持契約をした内の4社と実施許諾契約を結んだ。			
アドバイザー連絡先		電話: 0985-74-2953 電子メール: kubota-ad@adp.jiii.or.jp	

	ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
5	省エネシステム 「受電設備の力率調整システム」	(株)堀甲製作所(熊本県・姫戸町) (有)キノシタ(熊本県・姫戸町) 三島企画(有)(熊本県)	大光電業(株) (熊本県・嘉島町)	くまもと経済 2004年5月号
		担当した 深見 毅 特許流通アドバイザーのコメント 電気設備の力率を、負荷側からトランス2次側および1次側直近の順に調整し、最終的に入力側で100%近くまで調整することで無効電力によるロスを減らし、使用電力量を削減できるシステムを、堀甲製作所、キノシタ、三島企画の3社が開発、2003年12月に特許を取得した。大光電業への実施権ライセンスが初めてのケースとなる。熊本県知的所有権センターの深見毅特許流通アドバイザーがライセンサー3社に対して、「特許流通フェア in 九州」への出展を呼びかけ、会場でライセンサーからライセンシーを紹介されたのがきっかけ。同事業の工事請負から関心が高まり、技術導入に至った。3社業務提携および3社間の実施権の契約はいい経験になったという。		
		アドバイザー連絡先	電話: 096-331-7023	電子メール: fukami-ad@adp.jiii.or.jp
6	植物保水用担体	学校法人早稲田大学 (東京都新宿区)	三洋化成工業(株) (京都市)	日経産業新聞 2004年5月19日
		担当した 風間 孝彦 特許流通アドバイザーのコメント 早稲田大学の森有一客員教授らは、紙おむつなどに使うような保水剤を改良し、植物の生育に必要なカルシウムイオンを吸収しない素材を開発した。同技術シーズは、屋上緑化用の保水マットなどに使用される保水剤として、共同出願人の1人である三洋化成工業(京都市)に不実施補償型実施権ライセンスされ、商品化した。TLO(技術移転機関)発足前の案件で、早稲田大学TLOの産学官研究推進センターの風間孝彦特許流通アドバイザーは「発明家である教員・研究室の信頼を得ることは、TLOのライセンス活動、産学連携の活性化に大きな意味がある」としている。		
		アドバイザー連絡先	電話: 03-5286-9867	電子メール: kazama-ad@adp.jiii.or.jp
7	補助人工心臓用の簡易駆動装置技術	国立大学法人広島大学 (広島市)	(株)江波工作所 (広島市)	中国新聞 2004年6月5日
		担当した 野村 啓治 特許流通アドバイザーのコメント 広島大学大学院医歯薬学総合研究科の末田泰二郎教授が、移植手術などに用いる人工心臓用の簡易駆動装置を開発した。従来200kgあったポンプを7kgに軽量化できる。同技術の共同研究者で、特許の共同発明者でもある江波工作所(広島市)の香口真作会長が、特許の権利者である広島大学から実施権ライセンスを受けて、製造・販売に乗り出す。共同発明者の保護のため、TLO(技術移転機関)である財団法人ひろしま産業振興機構の野村啓治特許流通アドバイザーが契約を両者に勧めた。当面動物実験を行う大学や研究機関向けに製品を販売する方針だが、将来は救急医療などでの活用も可能。		
		アドバイザー連絡先	電話: 082-240-7718	電子メール: nomura-ad@adp.jiii.or.jp
8	高精度の穴あけロボ	柳沢健 (長野県松本市)	(株)三映電器製作所 (長野県小諸市)	日本経済新聞 2004年4月10日
	9	自然石アート舗装	(有)アステス (岐阜県・真正町)	高橋建材(株) (群馬県藤岡市)
10		イオン結合原理による洗浄	(株)エコ・グリーン (福岡市)	(有)エコ・クリーンアイランド (宮崎県延岡市)

これらの事例を含めて、特許流通の成約件数は
4,429件に達しました!! (平成9年度~平成16年6月30日の累計)

ライセンスの全国展開と品質維持のため 協会も設立し研修会を実施



「なぜコンクリート会社が木製ガードレールを？」という質問から、このインタビューは始まった。和光コンクリート工業（宮崎県日向市）の金丸和光会長に話を伺うと、そこには自然や山村に対する会長の深い思い入れがあった。自然との共生 コンクリート会社としての同社の創業の原点もそこにあった。同じ問題を抱える全国の山村に向けて、特許流通で全国への普及を図っている。

企業概要

和光コンクリート工業株式会社

本社所在地：〒883-0051 宮崎県日向市向江町2-125

事業内容：コンクリート製品の設計、製造販売に関する事業と付帯工事

技術導入実績：8件

技術移転実績：40数件

和光コンクリート工業は、40年前に設立した開発志向型企業である。一般のコンクリート製品のほかに、環境型製品として、水生生物や魚が住み着ける穴の開いたポーラスコンクリート技術を利用した球状ポーラスコンクリートブロック「ポラカブル」を開発した。「自然との共生にこだわる製品開発」が同社のメーンテーマである。

木製ガードレールを思い立って開発したのは10年前。林業農家に育った金丸会長は、子供の頃から杉の植え付けや下払いなどの育林作業を手伝った。戦後推進された杉などの人工林は、今、団塊の状態で伐期を迎えている。その価格は輸入材との価格競争にさらされて、山地における杉材1m³当たり単価は4000円前後が相場となっている。このため、山元での育林意欲が失われ、森林の荒廃と山村の廃墟化となって現れている。

今、山村支援対策を講じなければ今日まで環境を支える森林を守ってきた農山村の存続も危い。つまり「環境配慮は山村配慮」との金丸会長の強い思いが、木製ガードレールの開発思想となっている。

木材は間伐材に限らず、しっかり育った主伐材でも需要は低迷している。中でも直径18cmから22cm程度の中目材と呼ばれるサイズはさらに用途が少

ないなど、「林業の疲弊は深刻」（金丸会長）という。

複数回使うためのコンクリート支柱

木製ガードレールといえば、公園の中などでは柵（さく）のようなものを見かけるが、一般道路の車道と歩道を隔てるガードレールとして使われているケースはこれまでなかった。それは、社団法人日本道路協会が定める防護柵設置基準でガードレールの性能が規定されており、車両の衝突時の強度、衝突時のドライバー保護など、いくつかの基準をクリアしなければならないからだ。

従来の基準では、当然のように素材はスチールかワイヤーに限られていた。車両衝突時の衝撃に耐えられるのは金属しかなかったからだ。しかし1998年（平成10年）11月の防護柵設置要綱の改定に伴い、新たな「防護柵の設置基準・同解説」が設けられた。従来の仕様の規定から性能の規定へと変更され、性能確認試験によって強度と安全性を兼ねそろえれば木材でもできるようになった。

問題は強度。基準では、

25tトラックを時速35kmで15度の角度から衝突させるものと、乗用車を時速60kmで20度の角度で衝突させるものがある。衝突時に車が突き抜けないと同時に、運転者などにダメージが少ないように設置する方法がポイントとなる。

一つは木製のビームの取り付け方。アンカーボルトでの固定方法や固定側の形状、ブラケットの連結の方法などをいろいろ変えて実験した。

もう一つが支柱の素材と形状。「弊社がコンクリート会社だから支柱をコンクリートにしたというわけではない」と金丸会長は語る。現在の一般のガードレールと同様、スチールのパイプを使うこともできる。しかし実際やってみると木材をガードレールの緩衝

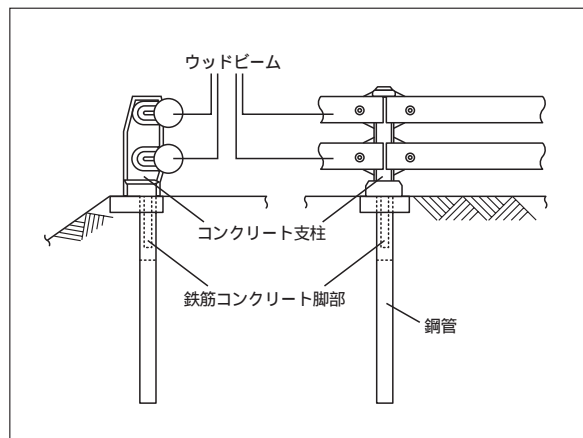


図1 木製ガードレールとそれを支えるコンクリート支柱の構造

材として使用するためには、木材の伸び特性が期待できないために支柱の剛性を高くする必要があった。スチールパイプでも実現できるが、一般のガードレールのスチールパイプよりも太くする必要がある。

一方、ビームそのものは木材なので、需要の促進のために10年を目安に定期的な取り換えを前提にしている。取り付けの安定性や強さなどを考えると、ポールは頑丈なコンクリート製の方が何度でも取り付けられると判断された(図1)。

防腐剤にも環境のこだわり

2002年(平成14年)8月に財団法人土木研究所で実際にトラックや乗用車を無人で衝突させるなどの性能評価試験を行い、全国で初めて、木製防護柵として車両用防護柵の性能認証試験に合格した。商品名は「ウッドGr(ジーアール)。(Grはガードレールの意味)」。同技術の普及のため、金丸会長が中心となって日本木製防護柵協会が設立され、情報交換と技術の研修が行われている。現在の加入企業は13社。設置実績はまだ林道が中心だが、県道にも使われ始めた(図2)。2004年7月現在で総延長で70kmに及ぶ。

木材の特性は地域によって異なる。認証試験を合格したのは、そのバラつきの中でも性能の劣る木材を使用した場合なので、手順通りに施工すれば全国統一の安定した品質を保証できるという。ただし、木材の耐久性を向上するために防腐剤処理の方法や乾燥法、ひび割れ対策の方法などについても基準を決めている。「このガードレールは人間も触れるし、交換後は資源として再利用される。このために、人間や環境に優しい防腐剤の使用を規定している」という。あくまでも環境へのこだわりを持っている表れだ。

実は、財団法人土木研究所での試験を行う以前に、社内で何度も実際にトラックや乗用車を木製防護柵に衝突させる実験を繰り返してきた。「同研究所の認定試験だけでも数千万円かかるが、自社試験を入れると1億円は使っ



図2 九州の高千穂バイパス218号に設置した「ウッドGr」

た。元が取れる見込みはない」と金丸会長はさばさばと語る。現在の問題はコスト。通常のスチール製ガードレールの4倍はかかる。「森林資源の有効活用という目的がはっきりしているユーザーしか期待できないが、受注件数は着実に伸びている。現在は和光コンクリート工業の売上比率は10%未満だが、将来はもっと伸ばしていきたい」と、2002年に社長職を引き継いだ若い金丸和生社長も意欲を見せる。

杉材のほかにも、日本にはカラマツの人工林も多い。北海道や長野なども同じような山林の問題を抱えている。長野県もカラマツ材の有効利用に積極的で、カラマツ利用技術開発の一環として信州型木製ガードレールの開発を公募。和光グループがこれに応募して、このほど「カラマツを用いた木製ガードレール」も完成させた。また宮崎県は木材の用途開発に非常に積極的だという。

この木製防護柵の開発を通じて、繰り返し行ってきた衝突実験では、すべて無人で車を走らせていた。決められた角度で衝突させるために、いろいろ工夫をした結果、遠隔操作で車を操縦する方法を考案した。これも現在、特許を申請中だという。

積極的に特許の導入と移転

今年フィンランドで行われた国際木材学会の構造国際会議で「ウッドGr」の発表をしてきた。さすがに木の国といわれるだけあって、非常に関心を持

たれたという。

宮崎県知的所有権センターの久保田英世特許流通アドバイザーとの出会いは、同氏の就任後の最初の訪問以来4年間ずっと続いているという。「だいたい週に1回は訪ねて来られます」(金丸会長)という。

実際、和光コンクリート工業は、同社が保有しているもう一つの技術である「多孔質ブロックとその構造物」に関しても幅広くライセンス展開している。このことが、特許庁が毎年4月18日の「発明の日」に合わせて行っている産業財産権制度活用優良企業表彰で、2004年度(平成16年度)特許庁長官表彰を受賞した理由となっている。

さらに、こうしたコンクリートブロックと木材を組み合わせた護岸システムや土砂崩れ止めなどの複合製品も提案している。木材を保水材や保肥材として複合的に用いる研究を進めるなど、信頼性の高い製品を世の中に提供していこうというのが、同社の姿勢。会長となっても引き続き、自然との共生をテーマにユニークな提案を続けている。

(インタビュー:日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

特許流通アドバイザー連絡先



宮崎県知的所有権センター

久保田 英世

電話 = 0985-74-2953
電子メール = kubota-ad@adp.jiii.or.jp

工業所有権総合情報館、名称を「工業所有権情報・研修館」へと改称へ

独立行政法人工業所有権総合情報館は、2004年10月1日、名称を「独立行政法人工業所有権情報・研修館」へと改称。従来業務に加えて、情報関連業務と人材育成業務を追加し、さらなる業務拡大を図る予定。

「特許流通フェア」を各地で開催

特許庁・各経済産業局および沖縄総合事務局は、特許流通フェアを各地で開催する。特許の提供または導入を希望する企業、大学、研究機関、仲介事業者、技術コンサルタントなどが直接交流する「出会いの場」を提供する。独立行政法人工業所有権総合情報館も出展を予定。入場は無料。

局名	名称	開催期間	会場(住所)
北海道	2004特許流通フェアin北海道	11月11日(木)~12日(金)	アクセスサッポロ(札幌市)
東北	特許流通フェアin東北2004	11月25日(木)~26日(金)	ビッグバレットふくしま(福島県郡山市)
関東	2004特許流通フェアin東京	9月29日(水)~10月1日(金)	東京ビッグサイト(東京都江東区)
中部	特許流通フェア中部2004	11月17日(水)~19日(金)	名古屋市中心企業振興会館(名古屋市)
近畿	近畿特許流通フェア2004神戸	10月14日(木)~15日(金)	神戸国際展示場(神戸市)
中国	中国・四国特許流通フェア2004	12月1日(水)~2日(木)	広島県立広島産業会館(広島市)
九州	特許流通フェア2004 in九州・沖縄	11月17日(水)~19日(金)	西日本総合展示場(北九州市)
沖縄	特許流通フェア2004 in九州・沖縄	12月1日(水)	沖縄産業支援センター(那覇市)

詳細は、特許庁のホームページに紹介されています。 <http://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/ibento2/fair.htm>

「特許ビジネス市」、2004年9月(東京) 11月(大阪)で開催

独立行政法人工業所有権総合情報館は、2003年に引き続き「特許ビジネス市」を開催する。「特許ビジネス市」は、特許流通促進事業の一環として開催されている。特許技術などのシーズを保有する企業などが特許技術の内容・効果、商品開発のポイントとなるビジネスプラン、ライセンス条件などについて説明する。これに対して当日出席する金融機関、証券会社、商社、シンクタンク、民間知財業者、ライセンサー候補企業、一般参加者から当該技術のライセンス、商品開発のための共同研究、商品の販売協力、事業資金の支援など、各種アライアンスの申し出を募る場(市)である。

知的財産の事業化への客観的評価や市場価値という社会的尺度が示されるため、今後の特許流通市場の活性化に向けて大きな効果をもたらすものと期待されている。

東京

日時: 2004年9月30日(木) 10:30 ~ 16:00
 場所: 東京ビッグサイト 東3ホール
 東京都江東区有明3-21-1
 入場: 無料

- 発表案件: 1. 松下電工「しわ計測装置」
 2. ライオン「環境対応容器(薄肉PPボトル)」
 3. (財)理工学振興会(東工大TLO)全方向移動用車両
 4. 姫野陸男(ヒメノベック代表)「内装材 漆喰塗料」
 5. 高谷松文「ヨウ素を使った金属表面処理技術」
 6. 松下電器産業「真空断熱材」

大阪

日時: 2004年11月12日(金) 13:00 ~ 17:00
 場所: クリエイション・コア東大阪
 大阪府東大阪市荒本北50-5
 入場: 無料

- 発表案件: 1. ライオン「ハイブリット型消臭剤(ライオナイト)」
 2. 高谷松文「ヨウ素を使った金属表面処理技術」
 3. 甲木昭雄「深穴加工装置及び深穴測定装置」
 4. (財)理工学振興会(東工大TLO)全方向移動用車両
 5. 松下電器産業「酸度測定装置」

詳細は、独立行政法人工業所有権総合情報館のホームページに紹介されています。 <http://www.ryutu.ncipi.go.jp/info/ichi/index.html>

特許流通 ニュースレター

特許流通ニュースレター No.4

2004年8月15日

- [発行] 社団法人発明協会 研究所
 特許流通促進事業センター
 [企画・編集・制作] 日経BPクリエイティブ
 [印刷] 大日本印刷

「特許流通ニュースレター」は、独立行政法人工業所有権総合情報館からの委託事業によって編集・制作されています。

「特許流通ニュースレター」のバックナンバーは、独立行政法人工業所有権総合情報館のWEBページURL: <http://www.ryutu.ncipi.go.jp/index.html>でPDF形式でご覧になれます。

お問い合わせ先

社団法人発明協会 研究所 特許流通促進事業センター 特許流通促進グループ
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-40 江戸見坂森ビル4階
 TEL=03-5402-8431 FAX=03-5402-8437

著作権は、工業所有権総合情報館と日経BPクリエイティブ、もしくは寄稿者に帰属します。記載記事を許可なく転載することを禁じます。WEBサイトへ許可なくアップするなどの再利用も禁じます。
 Copyright ©2004 National Center for Industrial Property Information and NikkeiBP Creative, Inc.
 All Rights Reserved